

日本アフェレシス学会第1回九州地方会抄録

平成7年4月22日(土) 於:古賀病院附属医学研究所5Fホール 世話人:古賀伸彦(古賀病院)

下肢閉塞性動脈硬化症(ASO)に対するLDL アフェレシスの有効性に関する基礎的検討

植木幸孝・村島 潤・長田征三・三宅清兵衛
富永雄幸
佐世保中央病院内科

【目的】下肢閉塞性動脈硬化症(ASO)患者に対するLDLアフェレシスの末梢循環改善作用について、その作用機序については未だ不明な点が多い。私たちは、キニン・カリクレイン系、血清中一酸化窒素(NO)のLDLアフェレシス前後での変動を検討した。

【方法】間歇性跛行を伴うASO(Fontaine分類2度以上)患者10名について、LDLアフェレシス(リポソーム-LA15システム, 3,000ml処理)の直前と直後で、①キニン・カリクレイン系(高分子キニンノーゲン、ブレカリクレイン、ブラジキニン)、②血清中NO量は NO_2/NO_3 量をCd/Cu還元法を用い化学発光法によって測定した。

【結果】LDL吸着療法施行後に、①血漿ブラジキニン濃度が著しく増加した。②血清中NOが有意に増加した。

【結論】LDLアフェレシスによるASO患者の末梢循環改善は、血漿ブラジキニン、血清中のNOの増加による血管拡張作用の関与が示唆された。

血漿交換および免疫吸着を施行した ループス腎炎の一例

園田浩一郎*・錦 雅春*・原田孝司*・荻野真理子**
浪江 智**・大園恵幸**・原 耕平**・堀田義雄***
S.Razzaque***・田口 尚***

*長崎大学医学部附属病院腎疾患治療部
**同第二内科
***同第二病理

SLEを発症しループス腎炎のため、腎機能の急速な悪化を来した症例(33歳、女性)に血漿交換療法(新鮮凍結血漿3,000ml置換)および免疫吸着療法(セレスORBを用いて血清, 6,000ml処理)を施行し、施行前後の免疫血清学的推移を検討した。免疫複合体および抗DNA抗体は免疫吸着療法に比し、血漿交換療法にて低下し、また補体は血漿交換法で上昇したが免疫吸着法では低下した。ステロイド療法および免疫抑制剤の併用療法にて腎機能は改善した。

各種の血液浄化法を併用し救命し得た、 多発外傷後敗血症性多臓器不全の一例

藤田尚宏*・吉田昌人*・服部希一*
木下義昌**・岡 直剛**
*佐賀県立病院好生館救命救急センター
**同好生館外科

【症例】43歳、男性。H6年10月9日、運転中トラックと激突し当院救命センターに搬入された。来院時JCS:III 100で左上肢の不全麻痺を認め、ショック状態であった。諸検査の結果、びまん性脳軸索損傷・両血胸～肺挫傷・大動脈損傷・縦隔血腫～心臓内血腫・肝～脾裂傷・右下腿骨折などを合併。

【経過】当初保存的治療を行っていたが、腹腔穿刺にて膿性血性腹水を証明。この時点で高度のseptic shock～ARDSに陥っていたため、術前にエンドトキシン吸着:PMXを施行後、緊急開腹術を行った。その後、縫合不全、腹腔内膿瘍、麻痺性イレウス、肝不全～黄疸を伴ったので、再開腹術とともにPMX・ビリルビン吸着・血漿交換・CHDFを併用し集中治療に専念した結果、救命し得た。

エンドトキシン吸着療法の凝固・線溶系への影響

海津嘉蔵*・瓜生康平*・杉田篤生*・広重欣也*
轟 秀一**・岡本好司**・伊藤英明**・池田匡儀***
甲斐理子***・白川文彦***・江藤澄哉***
*産業医科大学腎センター
**同第一外科
***同第一内科

エンドトキシン吸着療法(ET-DHP)を2例実施し、凝固・線溶系への影響を検討した。症例1:62歳女性、直腸穿孔による急性腹膜炎と敗血症DIC, MOF例。症例2:46歳男性、悪性関節リウマチの経過中に全身性炎症反応症候群, ARDS, MOF例。2例共フサンを使用してET-DHPを実施し凝固・線溶系への影響を検討した。結果:吸着カラム前後の凝固・線溶マーカーを比較したところ症例1では殆ど変化はなかったが、症例2では強い凝固亢進が惹起されていた。ET吸着カラムにより凝固亢進が生ずる可能性が示唆された。